田原市制10周年
広報たはら

Tahara

田原市ホームページ http://www.city.tahara.aichi.jp

2014
平成26年
3.15

見上げた先は癒やしの空間！

目次

「しみんの広場」 2
広報サポーターだより
「田原市給食センター」
今月の渥美半島の花
地域の話題
市民活動を応援するページ
スクールリポート
学校生活の一コマを紹介 6
私の歩み方（鈴木信二さん） 7
連載コーナー 8
おしらせ 10
歴史探訪クラブ 12

しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

●広報サポーターだより……2ページ
●今月の渥美半島の花……3ページ
●地域の話題（福江校区）……4ページ
●市民活動を応援するページ……5ページ

市民発!

広報サポーターだより

『食育キャンパス』田原市給食センター

皆さん、こんにちは。広報サポーターの浪崎季代美です。子どものころ、どんな給食が好きでしたか?私は「ソフトめん」の日には、楽しみで登校するときから元気いっぱいだった覚えがあります。

今回は、4月から運営が始まる田原市給食センターについてご紹介します。

●田原市給食センターの外観

●開放的なテラス

●太陽光発電パネル（計50kW）

●風力発電（1kW）

●テラスから望む大山などの自然

給食センターは、2月4日（火）に竣工式を迎え、4月から運営が予定されています。機材や食器の準備が行われている2月中旬、私は取材に行ってきました。

◆オーガニックカフェ風の外観

最初に建物を見て、「給食センターっぽくないぞ」と感じました。おしゃれなカフェをイメージして作ったと聞いて納得!とても開放的で、日差しがやわらかなテラスがあります。小高い場所にある給食センターのテラスからは、大山や太平洋などを望むことができ、見学に来たらここでゆっくりしたいなと思いました。

◆市内49の小・中学校、保育園・幼稚園へ給食を提供

オール電化で9000食を提供する日本最大級の給食センター。4月から温かくておいしく、栄養バランスのよい給食が届けられます。

野菜は3回洗い、アレルギー除去食は別室で調理し、また肉・魚・卵などの下処理も別室で調理するなど、徹底した衛生管理が行われます。

また、県下初となるセンターでの炊飯も行われるそうです。

広報サポーター
浪崎季代美
（高松校区）

※田原市広報サポーターの部屋

●田原市ホームページ
http://www.city.tahara.aichi.jp/
●ブログアドレス
http://kohotahara.dosugoi.net/
●ツイッターアドレス
http://twitter.com/#!/KohoTahara

◆作業の様子を2階から見学

給食を作る様子を、給食センターの2階から見学することができます。子どもたちが食べる給食を作っているところが見られると聞いて、とても安心できました。

また、見学コース内には調理員が使用しているものと同じ手洗い場や、衣服のほこりを落とすエアシャワーがあり、実際に体験することができます。小型のお釜（かま）が置いてあり、動かしてみることもできます。

調理員が行うことを体験することで、さらに身近に感じますね。

※見学についての詳細は、今後、広報たはらなどでお知らせします。

●見学コース

●衣服のほこりを落とすエアシャワー

◆多彩な給食で子どもたちのハートをキャッチ！

子どもたちが「食」へ関心を高めるように、多彩な給食が予定されているそうです。

①バイキング給食
みんなが大好きなバイキング形式

②セレクト給食
献立の一部を子どもたちが選択

③リクエスト給食
人気のある献立を反映

④一流シェフ監修給食
日本の食材や食文化にこだわりを持つシェフが監修予定

聞いただけで、楽しくなってしまうような内容ですね！

◆給食を楽しみ、心を育てる

田原市は農業がとても盛ん。できる限り地元の食材を活用して「地産地消」に取り組む考え方は、給食センターが新しくなっても同じです。

「給食おいしい！最高！」と子どもたちを喜ばせ、すくすく育てる給食が、学校へ、園へと運ばれていくのがとても楽しみになりました。

●お釜が並ぶ煮炊き調理室。床を色分けし調理の過程ごとに通路を分けて衛生管理をしている

4月 今月の渥美半島の花&鉢花

カーネーション（切花／出荷時期:10～6月）

【花言葉】…母への愛、生きた愛情

日本では母の日に贈る花としてもおなじみです。本来は春の花ですが、温室栽培により長期間出荷されています。カラーバリエーションは豊富で、赤、白、ピンク、黄色、オレンジ、緑などさまざまな色が生産されています。

市内では、切花だけでなくポットカーネーションといった鉢花としての栽培もされています。鉢であれば長期間花を楽しむことができるので、贈り物にはオススメです。

田原市では、切花では約600万本生産されており、生産量は県内で4位。鉢花では約6万鉢で、県内2位の生産量を誇っています。

ラベンダー（鉢花／出荷時期:3～5月）

【花言葉】…沈黙、私に答えてください

風に揺れるこの花の姿は高原を連想させ、見ているだけでも涼しい気分を味わうことが出来ます。

アロマテラピーでは、この花のハーブティを飲んだり、ポプリを枕に入れておくと、気持ちを落ち着かせる効果があるとされ、「沈黙」という花ことばもこれに由来します。

田原市では鉢物として出荷されています。

地域の話題

福江校区
歴史ある町並みを活(い)かした「まちおこし」

地域のまちづくり団体や住民などが中心となり景観まちおこしに取り組んでいる福江校区コミュニティ協議会からお便りが届きました。

▲渥美郷土資料館収蔵の雛人形や、手作りのつるし雛を飾った「まちなか博物館」(ショッピングセンターレイ内)

▲検討会でロードマップをお披露目

「地域の誇り」でまちおこし 地域活性化を

福江校区には、城坂(しろさか)周辺に代表される昔の面影を残した町並みのほか、多くの史跡や名所があります。「地域の誇り」ともいうべき町並み保存のために何をすべきか、校区では平成24年度から景観まちづくり意見交換会やワークショップを開催し、校区の景観を意識したまちづくりに取り組んできました。

平成25年度は、福江地区まちなみ景観づくり検討会で、福江の城坂周辺の景観ルールづくりについて検討を重ねています。平成25年8月には、先進地である岐阜県恵那市を訪問し、福江でも実行できる景観まちおこしの事例を学びました。

雛人形を活用した〝つるし雛ロード〟

3月8日(土)、渥美ロータリークラブ主催の「免々田(めめだ)川 菜の花・桜まつり」に合わせ、福江地区まちなみ景観づくり検討委員や地域住民らが中心となり、雛(ひな)人形を活用したまちおこしを始めました。これは、河津(かわづ)桜が咲く免々田川沿いから続く店舗などに、保育園児やシルバーサロンの方々が手作りしたつるし雛を飾り、まちなかへ来訪客を誘導することで、賑わいを創出しようという新しい取り組みです。

観光客だけでなく地域の方々にも、福江の市街地や歴史ある町並みを楽しみながら歩いてもらおうと、貝や菜の花を使った料理を提供する店舗や雛人形の展示場所、散策スポットなどを掲載したつるし雛ロードマップを作成しました。このロードマップ片手に、福江のまちなかの散策を楽しむ来訪者の姿が見られました。

●見所満載のつるし雛ロードマップ

今後も、地域住民が誇ることのできる町並みを守り活かす取り組みを続けていきます。

市民のチカラ

市民活動を応援するページ

支援制度情報

市民活動の担い手育成を支援します

◉市民活動向上事業補助金

【募集期間：４月１日㈫～30日㈬午後５時必着※予算の範囲内】

対象事業　市内の市民活動の活性化につながる、団体のスキルアップ・人材育成、団体間の連携強化を目的とする活動（市民活動経験者がおおむね30名以上参加することが見込まれる活動）で、平成27年２月末日までに完了するもの
対象団体　市内で公益活動を行う５名以上で構成された団体
補助金額　補助対象経費の２分の１（上限20万円）
審査方法　書類審査、市役所担当課へのプレゼンテーション審査

◉新規団体・人材養成活動補助金

【募集期間：４月１日㈫～平成27年１月30日㈮※予算の範囲内】

▲平成25年度新規団体活動補助を受けた「NPO木遊びまごまごネット」の活動風景

新規団体活動補助金

対象事業　市内で実施される「福祉」「環境」「まちづくり」などの活動で、市民感覚の柔軟なアイデアや発想のある事業
対象団体　市内で公益活動を行う５名以上で構成された団体（設立２年未満）
補助金額　補助対象経費の全額（上限３万円）
審査方法　書類審査

人材養成活動補助金

対象事業　専門知識・手法などを習得する講座などで、市民公益活動の推進に有効であると市が認める事業への参加
応募要件　４月１日現在で田原市内の市民活動団体（５人以上で構成する団体）に所属している方
対象経費　交通費、宿泊費、受講に必要なテキスト代、講座受講料など
補助金額　事業費（対象経費）の全額または一部（上限３万円）
※一団体あたり年間３名以内（ただし１名につき１回まで）
審査方法　書類審査

申請先　市民協働課☎23局3504
その他　制度の概要、申請書の書き方など応募に関する相談は、市民活動支援センター（開設日は頁下段）で随時対応しますので、お気軽にご相談ください。また、応募の手引き・申請様式などは、市ホームページ（HP http://www.city.tahara.aichi.jp/）からもダウンロード可

新制度

「市民活動チャレンジ支援補助金」のお知らせ

青年層（概ね18～40歳）の市民公益活動を支援する補助金が平成26年度からスタートします。若者の皆さん、地元の仲間同士、職場の同僚同士で、市民活動にチャレンジしてみませんか。

募集に関する詳しい内容は、広報たはら4月15日号、市民活動支援センターホームページなどでお知らせします。

※各種補助制度の実施は、平成26年度予算の確定が条件となりますので、あらかじめご了承ください。

田原市民活動支援センター

HP http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/
☎22局1111（内線812）※開設時間のみ
FAX23局0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン始めました！

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。

スクールリポート

SCHOOL REPORT 66
学校生活の一コマを紹介

今回は、小学校での「ひだまり組活動」と中学校での「立志歩行」の様子をご紹介します。

●学校教育課☎23局3679

堀切小学校「ひだまり組活動」
お年寄りの知恵や工夫に学ぶ

堀切小学校では、地域のお年寄りから学ぶ活動「ひだまり組活動」を実施しています。低学年と中学年は昔の遊び、5年生は餅つき、6年生は地域の史跡を巡る「ふるさと探訪」を中心として、子どもたちがお年寄りの知恵や工夫にふれる機会としています。

昨年12月4日(水)、5年生は自分たちで苗を植え(5月)、刈り取り(9月)をした餅米を使って餅つきに挑戦しました。当日は、校区のお年寄り約20名が参加。子どもたちは、杵の扱い方の指導を受け、初めての子も楽しく餅をつくことができました。出来上がったのは、「あんこ餅」「きなこ餅」「大根おろし餅」「みたらし餅」「キムチ餅」の5種類です。1年生から6年生の各学級につきたての餅が配られました。どの餅もおいしく出来上がりましたが、特に目新しい「みたらし餅」と「キムチ餅」が好評でした。

地域のお年寄りとの会話やふれあいなど、普段、教室の中ではできない貴重な体験を通して、子どもたちの笑顔があふれた一日でした。

●お手本をまねて杵を振るいます

●つきたての餅の味は最高です

●日出の石門から、みんなで日の出を見ました

●班ごとに協力し合いながら次の目的地へ

東部中学校「立志歩行」
仲間と歩んだ大人への第一歩

東部中学校では、7年前から毎年2年生が立志歩行を行っています。伊良湖岬から学校までの約38kmの道のりを、それぞれ班に分かれ、メンバーと励まし合いながら歩きます。

今年は、1月16日(木)に行いました。学校に集合した早朝5時には、西の空に満月を見ることができました。バスで伊良湖岬まで行き、恋路ヶ浜で出発式を行ってからスタート。途中、日出の石門で日の出を見たり、赤羽根ロコステーションでお弁当を食べたりしました。歩行後半、学校が近づくにつれて足の痛みは増してきましたが、友だちと声を掛け合いながら歩き続け、頑張ってゴールすることができました。生徒たちからは、「立志歩行を通して友だちの大切さを知った」「38kmの道のりの壁を乗り越えることができたので、これからはあきらめそうになることがあっても立志を思い出して頑張りたい」といった感想が聞かれました。この歩行が、生徒にとって大人になるための一歩となることを期待します。

私の歩み方　第8回

各分野で活躍する田原市出身の方を不定期でご紹介しています。

鈴木 信二（しんじ）さん（神戸町出身）・東京都在住

俳優

◉神戸小学校・東部中学校を卒業。豊橋工業高校卒業後、現在の事務所がもつ養成所のオーディションを受け、合格。3年間稽古や先輩の手伝いをしながら芝居を学び、映画「あずみ」「THE LAST SAMURAI」で本格的に俳優としてデビュー。小さいころから習っていた空手を生かし、時代劇やアクションものを中心に俳優として活躍中。

【主な出演作品】

- 2003年「THE LAST SAMURAI」側近役
- 2003年「あずみ」あわ役
- 2007年「バベル」タケシ役
- 2009年「超笑撃的功夫混乱少年　真一文字拳」真一文字拳役
- 2010年「SAMURAI SONG」朝陽役　など

出会いとタイミング

―俳優になったきっかけは？

【鈴木さん】小さいころから空手を習い、映画も好きで、それを生かせるのは俳優しかないといつしか考えるようになっていました。高校時代に俳優を目指そうと決めたとき、米国のケンタッキー州から中学校の英語教師として来日していたケリーさんに、事務所の先輩を紹介してもらったのがきっかけです。それで今の事務所を知り、養成所を受験し、合格したのが始まりです。

―俳優としての転機は？

【鈴木さん】稽古に明け暮れていた当時、「あずみ」のオーディションの話がありました。オーディションを受け、監督に気に入られて合格、あわ役として出演しました。作品と監督との出会いはまさにタイミング。「あずみ」や「ラストサムライ」のオーディションを受けた時、緊張もせず、「おれはこの作品に出る」と直感がありました。上京する時「3年で芽が出なかったら帰ってこい」と父親に言われていたので、この2作品に出会っていなかったら、田原に帰っていたと思います。

―最近の活動は？

【鈴木さん】震災直後、石巻市（いしのまき）の牡鹿半島（おしか）にボランティアに行きました。ボランティアに行ったのに、逆に被災地の方々にたくさん親切にしてもらいました。ご飯を食べさせてもらったり、寝かせてもらったり。ボランティアに行って気づいたことは、与えるじゃなく、一緒にがんばることが必要だということです。今、被災地の方々に届けるものは、物ではなく、原動力です。自分たちに今、何ができるか。仲間と考え、出した答えが、地元の祭り「ございん祭」と盆踊りの復活と融合でした。自分たちで企画し、地元の観光協会へ提案したところ、観光協会の皆さんは快く協力してくれ、今は、8月の祭り「牡鹿さ　ござぃ～ん牡鹿半島復興祭」に向け、準備をしています。田原市の皆さんにもぜひ参加してほしいと思っています。田原と牡鹿の文化がつながり、産業や流通につながればいいと考えています。

▲平成26年1月6日、事務所の稽古場で養成所の生徒さんを背にインタビュー。

―田原市のイメージは？

【鈴木さん】小さいころは、いつも外で遊んでいました。小学校の裏山で、秘密基地をみんなで作り、先生に見つからないように落とし穴を作って基地を守っていました。実際、先生は一度も来ませんでしたけど（笑）。今は、盆や正月に帰ると、進化していく田原を感じます。新しい駅もでき、だいぶ駅前も変わりましたね。進化してもっと住みやすくなるのは、いいことです。でも、物じゃなく、田原市民としての誇りはなくさないでほしいと思います。

―田原市の子ども達へメッセージを

【鈴木さん】好きなことを見つけてほしい。やってみたいと思った習い事をやってみて、途中でやめるのは構わない。いろんなことに挑戦して好きなことを見つけてほしい。そして、好きなことを続ける強さ、好きなことを続ける誇りを持ち、好きなことを続ける自分を愛してほしい。

広がる未来へ 94
たはらエコ・ガーデンシティ構想

◉冬季田原市ライトダウンキャンペーンを実施しました

2月の省エネルギー月間に合わせて、市内のライトアップ施設などの照明を消す冬季のライトダウンキャンペーンを実施しました。

◆実施結果
- 実施期間／2月1日～2月15日
- 参加施設／67施設
- 削減電力量／約4300kWh
- 二酸化炭素削減量／約1600kg／CO2

◆主な実施内容
- 照明の消灯や間引き
- ノー残業デーの実施など

◉知らないうちに電気を使っている

◆待機時消費電力とは?

スイッチを入れていないのに、コンセントにつないでおくだけで多くの電力を消費しています。多くの家電製品は、リモコンで電源を切っても電力を消費しています。これが待機時消費電力です。

◆家庭における待機時消費電力の現状は?

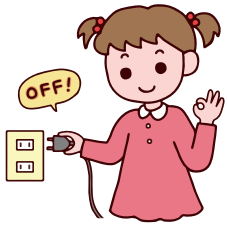
家庭一世帯あたりの待機時消費電力量は平均で228kWh／年であり、家庭一世帯あたりの全消費電力量の約5・1%に相当します。

◆待機時消費電力量は削減できる!

【ステップ1】
使わないときは機器本体の主電源スイッチをオフにする。(年間約19%削減)

【ステップ2】
機器を使っていないときは、プラグをコンセントから抜くか、節電タップなどを利用して節電する。(年間約49%削減)

※出典　資源エネルギー庁

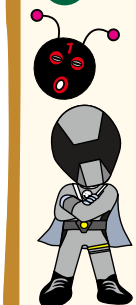


エネルギー消費量の増大や地球温暖化にストップをかけるために、みんなが問題意識を持ち、省エネ活動を実践しましょう。

◉たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人2520人・事業所97カ所(2月末現在)

▼エコエネ推進課
☎23局7401 FAX23局0180
HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

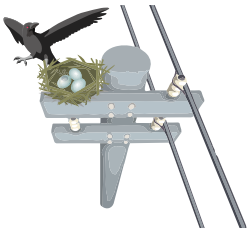
環境戦隊たはらエコレンジャー 環境けいじばん 21



カラスが鉄塔や電柱の上に巣を作っているのを見たことがありますか?カラスの巣作りによる停電被害についてお知らせします。

◆2月～5月はカラスの巣作りのピークです

毎年2月～5月にかけて、カラスの巣作りがピークとなります。カラスは、巣作りに金属製ハンガーなどを使うことがあり、鉄塔や電柱の上に巣を作ると、漏電やショートで、広範囲な停電を発生させる恐れがあります。



◆巣作り状況と予防措置

平成25年中に田原市で確認された電柱の上での巣作りは34個所ありました。中部電力では、パトロールを強化して、カラスの巣作りの発見と停電防止措置に努めていますが、市民の皆さんの協力が不可欠です。

◆停電防止のためのお願い

- 金属製ハンガーや針金などをみだりに放置しない。
- 鉄塔や電柱上にカラスの巣を発見したら、中部電力(株)田原サービスステーションまで連絡する。

◆子どもを危険から守るために

電気は、扱い方一つで危険なものになります。子どもたちに正しい電気の使い方を教えましょう。

- 電線の近くで、たこあげやラジコン飛行機で遊ばない。
- 変電所に入ったり、電柱に登らない。
- 切れた電線にさわらない。

▼環境衛生課
☎23局3541 FAX23局0180
HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

▼中部電力(株)田原サービスステーション
☎(0120)985局636

交流通信
Exchanges communication

～国内外との交流・多文化共生～

友好都市　山のまち・長野県阿南町（あなんちょう）

小学生同士の交流や民間の物産展交流を行っている長野県下伊那郡（しもいなぐん）阿南町の話題を紹介します。

◆祭り街道の里

東三河北部から長野県南部の国道151号は通称「祭り街道」と呼ばれており、この地域には豊かな自然と古くから受け継がれてきた民俗芸能や祭りが今なお残されています。中でも阿南町は無形民俗文化財が数多く存在し、「祭り街道の里」の名にふさわしく、季節の移り変わりと共に町内の各地で伝統行事が行われています。季節に合わせて「祭り街道の里」阿南町を訪れてみてはいかがでしょうか。

▲新野の盆踊り（国指定重要無形民俗文化財）

▲昨年は町内外から約1,200人が参加

◆新野千石平（にいのせんごくだいら）ロードレース

毎年６月に阿南町の新野高原で行われるロードレースで、３km、５km、10kmのコースに分かれて走ります。年代別にクラスが分けられているため、子どもから高齢者まで安心して参加できます。沿道の暖かい声援やご飯と豚汁の無料サービスなど、地域住民のおもてなしに参加者の満足感があふれる大会です。申込受付が４月から始まりますのでぜひチャレンジしてみてください。

◉民俗芸能・祭りについてのお問い合せ
▶阿南町役場総務課　☎(0260)22局2141
HP http://www.town.anan.nagano.jp/
◉新野千石平ロードレースについてのお問い合せ
▶阿南町役場新野出張所
☎(0260)24局2001

みんなで取り組む防災・減災
けんちゃんの防災知恵袋 35
「LPガス」

皆さんの家庭では、LPガスを利用していますか。今回は多くの家庭で利用されているLPガスの災害時の対応について紹介します。

◆日頃の備え

●容器バルブやメーターの元栓の閉め方を覚えておく。
●容器が鎖などでしっかりと固定されているか確認。
●容器の周りに燃えやすいものや、飛ばされやすいものは置かない。

◆地震が発生したら

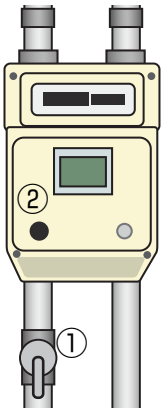
まずは自分の身を守り、揺れが収まったら、すぐに火を消し、ガス栓も閉める。

◆地震が収まったら

火災や津波による二次災害を防ぐためにも、戸外の容器のバルブやメーターの元栓を閉めてから、安全な場所へ避難する。
※津波警報が発令された場合は、高台へ逃げることを優先しましょう。

◆ガスの復帰方法

ボンベのバルブを開け、ガス臭くないことを確認し、次の手順で復帰させれば使用できます。



①すべての器具栓・ガス栓が閉まっているか確認しメーターの元栓を開ける。
②復帰ボタンを奥までしっかり押して、すぐ指を離す。
③約1分待ち、赤ランプが消えれば復帰完了。
※復帰しない場合は、販売店・取扱店に問い合わせましょう。
※地震などの災害後は、販売店・取扱店の点検を受けてから使用しましょう。

▼防災対策課☎23局3548
HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

おしらせ INFORMATION

募集 WANTED

第1回危険物取扱者試験

▼種類＝甲種、乙種全類・丙種
▼対象＝一般　▼日時＝平成26年5月11日（日）　▼場所＝名古屋市内
▼申し込み＝①市役所消防課または消防署・各分署で配布される受験願書に必要事項を記入のうえ、4月1日（火）～10日（木）の期間に郵送　②3月29日（土）午前9時～4月7日（月）午後5時の期間に一般財団法人消防試験研究センターホームページにて電子申請　▼その他＝テキストおよび事前講習会については、お問い合わせください。

●一般財団法人消防試験研究センターホームページ
HP http://www.shoubo-shiken.or.jp/
▼消防課
☎23局4074 FAX23局0180

東三河生涯学習連携講座受講者

「自然」をテーマに、東三河各地の魅力や課題などを検証します。
▼講座名＝「歩いて探そう東三河の宝　自然編」　▼日時／テーマ／場所＝表のとおり　▼定員＝50名（申し込み多数の場合は抽選／結果は全員に郵送）　▼受講料＝無料　▼申し込み＝4月25日（金）までに電話にて　▼その他＝秋に史跡をテーマに講座を開催予定です。定員を超える申し込みがあった場合、今回の講座を受講していない方を優先します。
▼生涯学習課
☎23局3531 FAX22局3811
E syogaku@city.tahara.aichi.jp

■歩いて探そう東三河の宝　自然編

	日　時	テーマ	場　所
1	5月16日金 午前10時30分～ 午後12時30分	初夏の豊川・ 江島河川敷探索 自然豊かな河畔林を 歩こう	豊川市 江島町地内
2	5月30日金 午前11時～ 午後1時30分	初夏の奥三河を 眺めよう	設楽町 面ノ木園地
3	6月13日金 午前9時30分～ 午後12時30分	とよがわ リバーウォーク 前芝・豊川河口付近	豊橋市 前芝地域

生活 LIFE

2014年度版「田原市健康カレンダー」をご活用ください

田原市では、健康情報、各種保健事業（住民検診、各種がん検診、予防接種、乳幼児健診など）の日程や当直医などを掲載した健康カレンダーを配布しています。また、カレンダーには、市内医療機関マップや福祉・介護サービスなども掲載しています。
　地区自治会を通して全世帯に配布していますが、配布されない世帯や転入された方などには、市役所、あつみライフランド、渥美支所、赤羽根市民センターでもお渡ししています。皆さん、ぜひご活用ください。
▼健康課（市役所内）
☎23局3515 FAX23局3810
▼健康課（あつみライフランド内）
☎33局0386 FAX33局0319

4月1日から地域福祉課窓口に手話通訳者を設置します

◆設置日時
　毎週月曜日／午前10時～午後4時
▼設置場所＝地域福祉課（市役所北庁舎1階）　▼内容＝手話通訳、手話通訳派遣申し込み、相談など
※他部署窓口での手続きにも対応可。地域福祉課へお立ち寄りください。
▼地域福祉課
☎23局3697 FAX23局3545

◆お詫びと訂正

広報たはら平成26年3月1日号に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

「消防かわら版」
・田原市消防団が総務大臣感謝状を受領（6頁左下）
正…総務大臣感謝状
誤…総理大臣感謝状
・消火協力者表彰（6頁右下）
正…江比間町西組
誤…下村俊秀さん（江比間町）
「市職員の給与等の状況を公開します」
・職員の平均年齢および平均給料月額・平均給与月額の状況（8頁）
技能労務職平均給与月額（田原市）
正…29万1,093円
誤…28万1,093円

春の全国交通安全運動
4月6日(日)～15日(火)

新緑が鮮やかなこの時期は、新入学児童の登下校が始まったり、高齢者の朝夕の散歩や外出の機会が増えたりすることから、子どもや高齢者が犠牲となる交通事故が心配されます。

また、気候がよくなり、その開放感から飲酒運転も心配されます。ドライバーの皆さん、飲酒運転をなくし、子どもや高齢者を見かけたら、思いやりのある運転で交通事故をなくしましょう。

◉運動の基本
- 子どもと高齢者を交通事故から守ろう

◉取り組み重点
- 自転車の安全利用を進めよう
- 全ての座席でシートベルトとチャルドシートを正しく着用しよう
- 飲酒運転を根絶しよう

▼市民協働課 ☎23局3504 FAX23局0180

春の安全なまちづくり県民運動
4月1日(火)～10日(木)

平成25年中の住宅対象侵入盗の件数は愛知県が全国ワースト1位で、田原市内でも住宅への侵入盗被害が増加しました。

4月は気候も良くなり気持ちも開放的となる時期です。この機会に、ご自宅などの防犯対策がしっかりできているか確認し、万全の態勢を日常化できるように習慣付けていくことが大切です。

また、新入学児童・園児は、身を守る力が弱いだけに、保護者を始め周りの大人の目で見守っていく必要があります。地域ぐるみの防犯活動で、安心して暮らせるまちづくりをめざしましょう。

◉運動重点
- 家の鍵掛け、窓への防犯フィルムなど対策を取りましょう。
- なるべく人通りが多く明るい道を通りましょう。
- 振り込め詐欺に注意しましょう。

▼市民協働課 ☎23局3504 FAX23局0180

田原市医師確保修学資金等の申し込み

地域医療における医師確保を図るため、将来医師として田原市内の公的医療機関（厚生連 渥美病院）に勤務する意志のある方を対象に、修学に必要な資金をお貸しします。

◉申込資格　平成26年４月１日時点で、医学部大学生、医学部大学院生および医師で臨床研修、専門研修を受けている方、または受けようとする方

◉貸与人数　若干名

◉貸与資金の種類と金額・期間

名称	貸与金額	貸与期間
大学生修学資金	月額20万円 入学時100万円（1回限り）	正規の修学期間（6年間を限度）
大学院生修学資金	月額20万円	正規の修学期間（4年間を限度）
研修資金	月額10万円	5年間を限度

※修学資金等は、重複して申請できますが、貸与期間は通算するものとし、原則６年間を限度とします。

◉申込期間　４月１日(火)～５月9日(金)　※締切日必着

◉申込方法　健康課にある貸与申請書（市ホームページからもダウンロード可）に必要事項を記入のうえ必要書類を添えて直接提出
※詳細は応募要領をご覧ください。

◉選考方法　書類審査および面接

◉次の条件に該当する場合、貸与した修学資金等の返還を免除します。

①臨床研修、専門研修または大学院の課程を修了後、原則として直ちに特定従事医師（産科・小児科）として、修学資金等の貸与期間の３分の２に相当する期間を市内の公的医療機関に勤務したとき

②臨床研修、専門研修または大学院の課程を修了後、原則として直ちに特定従事医師以外の医師として、修学資金等の貸与期間に相当する期間を市内の公的医療機関に勤務したとき

※貸与期間が短い場合でも、３年以上の勤務期間が必要です。

◉問合先・提出先

田原市役所　健康課
☎２３局３５１５ FAX２３局３８１０
HP http://www.city.tahara.aichi.jp/

歴史探訪クラブ 其の156

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

大山灯台のこと

大山の中腹にある白山比咩（しらやまひめ）神社（越戸町）に参拝したのち、太平洋を眺めました。広がる海には漁船はもとより、貨物船が行きかう景色が印象的でした。

私たちの祖先は、生活の糧ばかりでなく多くの希望を胸にこの海原へと果敢に向かい、他国との国際化を進めたのです。渡辺崋山がこの太平洋のかなたに西洋の国とつないでいることを実感したのも、このすばらしい景色を見たからです。

さらに、越戸町に明治21年7月19日に竣工した「私設大山灯台」のことに思いを巡らせました。この灯台は、和地村、越戸村の有志が発起人となり計画されたものです。

古くから海の難所でもある渥美半島沖は、江戸時代にも多くの船が難破しました。そして大山灯台設立の趣意書に、**明治五年以来、本年ニ至ル十年余、浜海ニ於（オイ）テ覆没（フクボツ）スルモノ四十艘（ソウ）ノ多キニ至ル**とあり、切実なものとなっています。

しかし、私設大山灯台はこの海の安全を守るための施設にも関わらず、手続きや資金の調達など思うようには進まず、明治16年から5年の時を経て、やっと実現しました。当時の逓信（ていしん）大臣、榎本武揚（えのもとたけあき）名で点灯の許可が下りたのは明治21年8月4日のことでした。灯台は越戸町の西のはずれ、海を臨む崖の上に設置されましたが、現在では、その場所を知る人もいなくなりました。

●まぼろしの私設大山灯台

記録によると、灯台は木造六角形で、白色に塗られていました。基礎から灯火までの高さは約5・1m、海面からは約24・5m。計画では、その光は晴天の夜では八里（約24km）まで到達するとしています。

渥美半島には、防波堤にある灯台を除き、「伊良湖岬灯台」「立馬崎灯台」があります。

伊良湖岬灯台は、昭和4年に点灯されました。風光明媚な立地、美しい外観から「日本の灯台50選」にも選ばれ、恋人たちの願いがかなうスポットとして人気があります。灯台の解説には「この灯台が昭和四年の点灯以来、数多く船人の命と貴重な財貨を人知れず救ってきたのであろうことを想（おも）うとき、これからも夜毎（ごと）美しい光を沖行く船に投げ掛け続けるように祈念するものであります」とあります。切実な海の安全のために作られた灯台が、今やこのようなかたちで親しまれていることは、設置に尽力した人は思いもよらないことでしょう。

●伊良湖岬灯台と神島の絶景

この海を照らす灯火には、明るさという「安全」だけでなく、「希望」を私たちに与えてくれるのです。

一方、私設大山灯台は、苦労して許可を得たにも関わらず、灯火はまもなく消え、その存在も忘れ去られてしまいました。

（増山）

今月の「表紙」

▼田原が生んだ幕末の先覚者・渡辺崋山の菩提寺として名高い城宝寺。本堂奥の霊牌堂まで足を運び天井を見上げると、数々の美しい花の絵が一面に広がっています。この絵は、松林桂月画伯をはじめ、日本有数の画家や書家が描いたもので、ひと目見ようと多くの方が訪れているそうです。今の自分を見つめ直す、そんな場所でした。（I）

【表紙の写真】
城宝寺・崋山霊牌堂の天井画（田原町）

広報たはら Tahara No.758 平成26年3月15日号
●編集・発行／田原市役所政策推進部広報秘書課
●電話／0531-22-1111（代表）
●Eメール／koho@city.tahara.aichi.jp

本誌は再生紙を使用しています。